

身近なフィールドの食材に関する情報の視覚化

市川浩基

指導教員 小出昌二

拓殖大学工学部 デザイン学科 視覚デザイン研究

本研究は、世の中のあまり知られていない情報を視覚化することを目的とし、世間的なニーズや大学のPRポイントになる可能性があることから、八王子国際キャンパス内の食材に関する情報を今回視覚化することとした。視覚化の方法としてはB6サイズの冊子形式を採用した。冊子を作成するうえで、よくキャンパス内を散歩している近所のお年寄りの方をターゲットに設定した。

キーワード：アウトドア、食材、認知度の低い情報

1. 研究背景と目的

数年ほど前、アウトドアブームが再来した。山ガールという言葉も誕生するほどで、老若男女問わずキャンプや登山といったアウトドアをたのしむ人が増えた。

このようなアウトドアの楽しみ方の中には、山菜狩りや魚釣り等の自然の食材を自分たちで調達して味わうというものがある。キャンプ場検索サイトをみても、採取スポットのある場所は人気ランキング上位にランクインしている（1）。

しかし、実際に自然の中にどの様な食材があるのかを、詳しく知っている者は多くはない。そこで、実際に身のまわりにはどの様な食材があるのかを、拓殖大学八王子国際キャンパスをフィールドにして調査することにした。拓殖大学八王子国際キャンパスは単一キャンパスでは都内で一番の広さを持っている。さらに高尾山の麓に位置しているため、自然も豊かである。これらのことから、拓殖大学八王子国際キャンパスには食材が多くあると判断した。

また、この情報を効果的に視覚化することができれば、拓殖大学八王子国際キャンパスの新たなアピールポイントとして利用することができる可能性もあると考えた。

そこで本研究では、キャンパス内の食材の種類を調査し、その情報が伝わりやすくするために視覚化を行うことを目的とした。

2. 研究の方法

- ①図鑑（2）を元に拓殖大学八王子国際キャンパス内を探索し、食材を調査する。
- ②発見した食材は撮影する。
- ③調査結果をまとめ、冊子を作成する。

3. 調査結果

今までに行った敷地内の調査により発見した食材を一覧表にまとめた（表1）。

表1 キャンパスで発見した食材一覧

植物	ギンナン	キクラゲ
タンボポ	スギナ	オニグルミ
ウメ	スイバ	ヤマモモ
シソ	ヘビイチゴ	魚
ドングリ	カラスノエンドウ	コイ
クリ	ヨモギ	動物
モミジ	マツの実	イノシシ

食材は、人の手の入っていないところに多くある傾向だった。季節の変化により新たな種類の食材を発見することができた。また、今回の調査で発見した食材は、撮影した（図1）。



図1 キャンパス内で発見した食材

まず、地図という形で視覚化してみることにした（図2）。

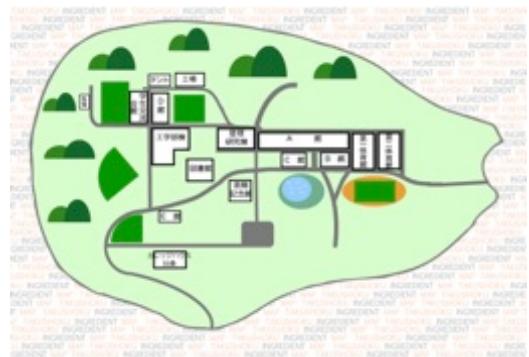


図2 大まかな地図

地図自体は簡易的に表し拓殖大学のどの辺りかがわかるようにし、文字の関係から、色も減らしてなるべく簡単なものにすることにした。

その結果、どの辺りに食材があるのかを一枚にまとめることはできた。しかし食材の見た目が表せないことや、発見した位置を正確に表そうすると文字が見にくくなってしまうこと、今後の調査でさらに種類が増えた時に更に文字が密集してしまい今よりも更に見にくくなってしまうことが課題として見つかった。

それに対して新たな方法として、冊子形式での表現を検討した。冊子形式で表現することで、今までに見つかった課題を解決することができるほか、季節ごとに食材を表すことが可能となる。

また、八王子国際キャンパスは近所の方がよく散歩をしにキャンパス内に来る。そういった方を今回ターゲットとして設定した。主にお年寄りの方が多いため、冊子のレイアウトは大人向けのものとする。具体的には、シンプルな見た目で、文字は読みやすいようにやや大きめのものにした

（図3）。また、冊子に少しストーリー性を与るために、キャンパス内を一周するように進んでゆくページ構成とした。さらにページ通りに進んでいくことで、そのまま散歩コースとすることもできる。



図3 冊子のレイアウト

4. 考察

今回の研究により、身の回りの食材についての情報は冊子形式での視覚化が効果的であることがわかった。また、キャンパス内の情報を利用することによって、大学と結びつけやすく、より大学のことを知ってもらうためのツールとしても活用できた。

この方法は、大学に限らず似たような環境であれば他の施設でも応用できるだろうと考えている。

参考文献

(1) キャンプ場検索・予約サイト【なつぶ】 <https://www.nap-camp.com>

(2) 大作光一 2018年7月1日 山菜&きのこ採り入門 株式会社 山と渓谷社